

なが
長
やぶ
藪
遺
跡

県営農地保全整備事業七野地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査概要



1989

たの
宮崎県宮崎郡田野町教育委員会



A 地区旧石器確認トレンチ作業風景

序

わにつか山麓に拡がる田野盆地には、至る所に古代遺跡が存在していますが、近年の開発に伴う発掘調査などにより、徐々にその様子が明らかになりつつあります。

その一つ、七野地区においては、昭和61年度・62年度の2ヵ年にわたり、田野町七野地区特殊農地保全整備事業に伴う丸野遺跡の発掘調査を行いました。さらに63年度は同事業に伴う長蔵遺跡の発掘調査を行いました。本書はこの長蔵遺跡の調査概要を報告するものです。

丸野遺跡の調査では主に縄文時代後期を中心とする集落遺跡が発掘されました。長蔵遺跡の調査では、縄文時代前期のボラを數きつめた長方形の土坑が出土し、また旧石器時代の遺物も出土しました。この長方形の土坑については「墓」である可能性が高く、当時の墓制の研究する上で貴重な資料になることと思われます。

なおこれらの調査結果は、学術上の資料としてはもとより、郷土の歴史を語り継ぐうえでも、また文化財保護に対する認識と理解を深めるためにも、欠くことのできないものになることと存じます。

平成元年3月31日

田野町教育委員会

教育長 種子田 栄 幸

例　　言

1. 本書は、田野町七野地区の県営農地保全整備事業に伴い、昭和63年度に実施した長蔵遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査組織は次の通りである。

調査主体 田野町教育委員会

教　育　長 種子田 栄 幸

社会教育課長 川 口 昭 七

補佐兼

社会教育係長 新 坂 政 光

社会教育係

主任 主事 後 藤 哲 男 (調査事務担当)

主 事 補 森 田 浩 史 (調査員)

調査指導 宮崎県総合農業試験場 有 村 玄 洋

宮崎県教育庁 文化課

3. 本書に掲載した挿図は、造構整図・遺物拓本の大半を室内作業員が行い、森田がこれを補足・修正した。
4. 本書の図版は、造構写真・遺物写真とともに森田が撮影した。
5. 本書の執筆・編集は、主に森田が行った。ただし、発掘調査に至る経緯については後藤が執筆した。
6. 本書に用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。
7. 本書に用いた記号は、SKが土坑、SIが配石・集石造構を表わす。
8. 出土遺物は田野町教育委員会で保管している。
9. 調査にあたっては地主の方々をはじめ同地区住民の皆様、地元土地改良区、中部農林振興局の方々にご協力をいただいた。また作業員として、町内在住の方々に従事していただいた。ここに記して感謝の意を表します。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	3
1. 検出遺構	3
2. 検出遺物	8
第Ⅲ章 まとめ	9

挿図目次

第1図 長蔵遺跡及び周辺遺跡分布図	2
第2図 遺構実測図（SK 10・53）	4
第3図 周辺地形図	5
第4図 遺構配置図	6
第5図 出土土器実測図・拓影	8

図版目次

図版1 A地区旧石器確認トレンチ・SK 15完掘状況	
図版2 土坑内埋土サンプリング状況・B地区遺構検出状況	
図版3 B地区南側遺物出土状況・C地区全景	
図版4 A地区出土遺物	
図版5 SK 70（御池ボラ）・B地区出土遺物	
図版6 B地区出土遺物・C地区出土遺物	

第Ⅰ章 はじめに

第1節 発掘調査に至る経緯

宮崎県宮崎郡田野町において、昭和61年度から、七野地区の県営特殊農地保全整備事業が行われている。それに先立ち、事業区内の埋蔵文化財の調査として、昭和60年12月に田野町教育委員会が分布調査を実施し、遺跡の存在を確認した。昭和61年度・62年度において、すでに同事業区内東側の丸野第2遺跡の発掘調査を終えており、今年は西側部分の丘陵上における遺跡の保護について、宮崎県中部農林振興局と協議が行われたが、高台のため事業施行上、保存が困難な地区であり、しかも工事との同時進行は不可能ということで、昭和63年度に記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

昭和63年3月に地元との協議も終わり、昭和63年5月11日から発掘調査を開始し、平成元年1月17日までに測量等を含めた現地の作業を終了した。

なお、調査にあたっては七野地区住民の皆様に並々ならぬご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

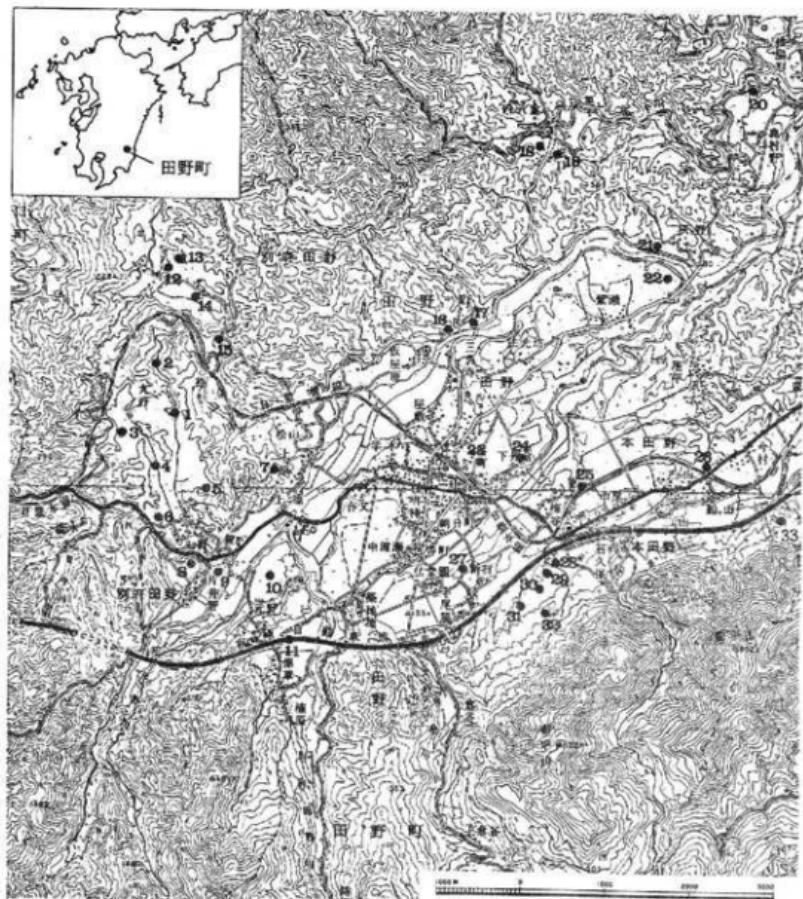
第2節 遺跡の位置と環境

宮崎県宮崎郡田野町は宮崎市の南西約20kmに位置し、鰐塚山系の山裾に抱かれた田野盆地を中心とする町である。田野盆地には、清武川とその支流によって開析された標高120m～140mの台地と谷底低地が形成されている。周囲は、南東から北西部を標高600m～200m級の山地が取囲み、北東部は開けて宮崎平野を望むことができる。田野町内の遺跡は主に台地上及び河岸段丘上に存在する。

長蔵遺跡のある七野地区は町の西方、国道269号線沿いの北側の広大な台地上に位置する。この台地には他に丸野遺跡・七野遺跡などが所在し、丸野遺跡については昭和61年度・62年度に実施された七野地区県営特殊農地保全整備事業に伴なう調査により、⁽¹⁾縄文時代から弥生時代にかけての遺構・遺物が確認されている。今年度調査を実施した長蔵遺跡は、丸野遺跡の西方対面の丘陵上に位置する。

註 (1)「田野町文化財調査報告書」第4集 1987 「同」第5集 1988

※町内遺跡の概略等については上記報告書を参照。



第1図 長戸遺跡及び周辺遺跡分布図

- | | | | |
|-----------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 丸野第2遺跡 | 9. ヒダカン城址 | 17. 萩ヶ瀬遺跡 | 25. 梅谷城址 |
| 2. 丸野第1遺跡 | 10. 高野原地下式横穴墓 | 18. 堀口A遺跡 | 26. 船ヶ山遺跡 |
| 3. 長戸遺跡 | 11. 黒草遺跡 | 19. 堀口B遺跡 | 27. 青木遺跡 |
| 4. 七野第1遺跡 | 12. 八重B遺跡 | 20. ズクノ山遺跡 | 28. 又五郎遺跡 |
| 5. 七野第2遺跡 | 13. 八重C遺跡 | 21. 狹ヶ野地下式横穴墓 | 29. 札ノ元遺跡 |
| 6. 七野第3遺跡 | 14. 八重A遺跡 | 22. 狹ヶ野遺跡 | 30. 芳ヶ迫第1遺跡 |
| 7. 天達神社址 | 15. 前畠遺跡 | 23. 桜町遺跡 | 31. 芳ヶ迫第3遺跡 |
| 8. 片井野遺跡 | 16. 田野城址 | 24. 井倉洞穴遺跡 | 32. 芳ヶ迫第2遺跡 |
| | | | 33. 合子ヶ谷遺跡 |

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 検出遺構

調査は表土の置場などの関係から便宜上A・B・Cの3地区を設定して行った。

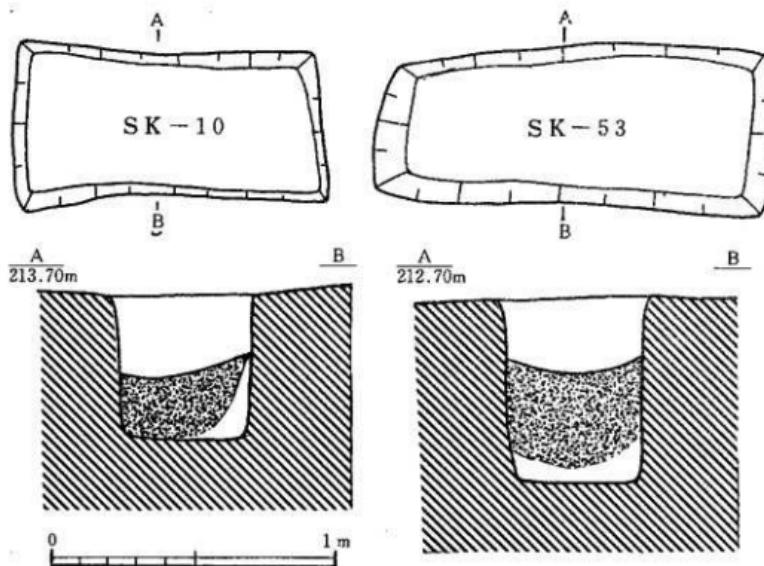
A地区は北西の標高約215mから南東隅の約212mへと傾斜する。基本層位は上層から耕土(Ⅰ層)・二次赤ホヤ(Ⅱ層)・赤ホヤ(Ⅲ層)・黒褐色硬質ローム(Ⅳ層)・褐色ソフトローム(Ⅴ層)・褐色硬質ブロック土を含む褐色ローム(Ⅵ層)・AT(Ⅶ層)の堆積が見られた。ただし急な斜面となっている調査内西側についてはⅢ～V層の堆積は見られなかった。遺構検出は当初Ⅲ層上面で行ったが検出が困難な部分もあり、再度V層上面においても行った。検出遺構は土坑が40基、集石遺構らしきもの(S I 23)が1基ある。土坑は方形のもの、楕円形のもの、長方形のもの、全く不整形なものなど様々であるが、いずれも遺物を出土したものは少なく、埋没時期も決定しがたい。大半が赤ホヤ層上面より堀り込んでいることから、縄文時代前期以降のものである。集石状の遺構については黒褐色硬質ローム層上面において確認したもので、おそらく縄文時代早期のものであろう。なお長方形の土坑の埋土にボラが見られた。これはレンズ状の堆積ではなく、人為的に持ち込まれたかのように厚く堆積している。SK 8・9・10・11・13・15・22である。IV層からV層上面まではまとまった遺構は見られなかった。

B地区は標高213.30m前後の比較的平坦な地形を呈するが、旧地形は西から東へ傾斜する。そのため調査区南北の幅約3～5mにわたってⅢ層・IV層が削平されていた。遺構検出はIV層・V層の各上面において行った。遺構はIV層において土坑が42基検出された。土坑の形状は円形のもの、長方形のもの、楕円形のものなどがあり、規模も大小様々である。長方形の土坑内からはA地区の例と同様、ボラの埋土が見られたものもある。SK 43・44・49・52・53・61・70・84・85・86などである。他に特記すべき遺構としてはSK 72がある。形状は卵形で1.65m×1.25mの深さ約1.4mを測る。V層においては土器片・焼石等の出土があり、一部焼石の集中する部分も見られたが、遺構として認識するに至らなかった。以上の土坑を含めて遺構内からのまとまった遺物の出土は無く、破片程度にとどまった。

C地区は南に向ってごく暖やかに傾斜している。赤ホヤがかなり削平されていたが、旧地形に対する影響はB地区ほどではなかった。遺構検出はIV層上面において行った。

遺構は土坑が18基検出された。土坑の形状は長方形・不整形なものがあり、長方形土坑については、SK87にボラの埋土が見られた。遺構内の遺物は他の地区と同様、破片にとどまった。

以上、各調査区において土坑が検出されたものの、住居址や明確な集石遺構は見られなかったこと、遺物が比較的少量であったことなどから、長蔵遺跡の調査した部分については居住域以外の性格を有していたものと考えられる。時期については遺構の掘り込み面、出土土器片の年代より、縄文時代前期を中心として営まれたものと考えられるが、Ⅲ層・Ⅳ層・V層・VI層内からも遺物が出土しており、旧石器時代～縄文時代早期にかけても機能していたことを示す。

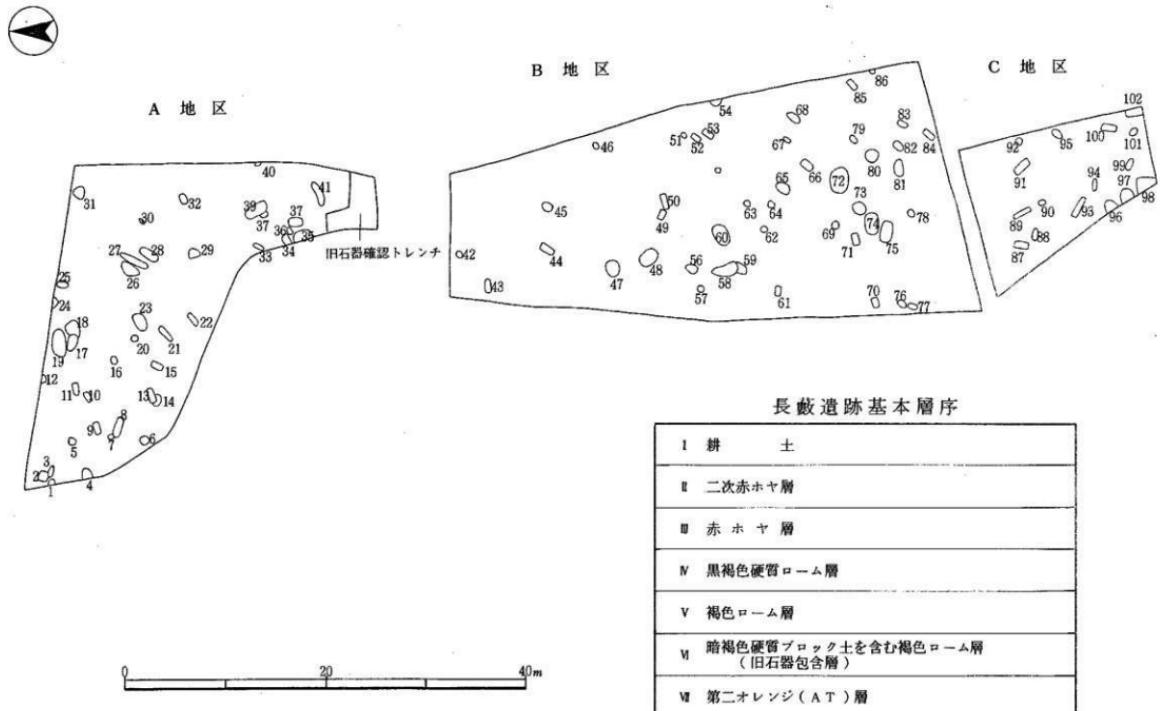


第2図 遺構実測図 SK10・53



第3図 周辺地形図

第4図 長藪遺跡遺構配置図



第2節 検出遺物

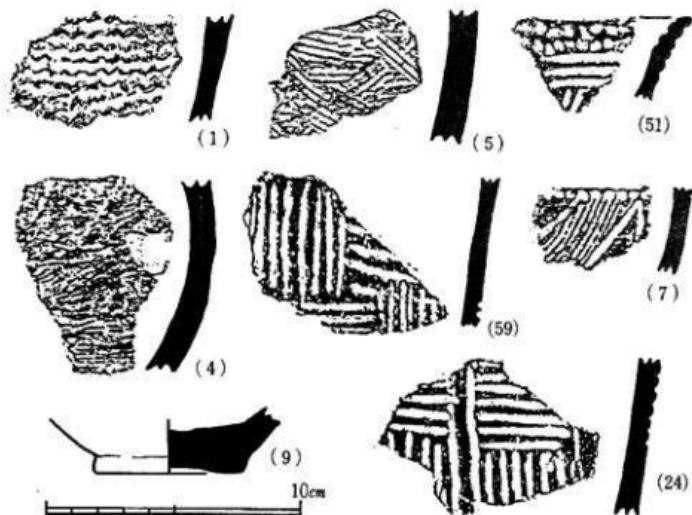
遺物は旧石器時代から縄文時代前期にかけての土器・石器が出土した。

旧石器時代 (10・15~21) A地区南端のトレーニングにおいてのみ出土し、その周辺及びB地区に設定したトレーニングでは確認されなかった。従って遺跡の拡がりはきわめて小規模なものが想定される。石核・剥片などが約80点出土し、接合可能なものも見られた。

縄文時代早期 (1~9・26・27) 黒褐色硬質ローム層・褐色ローム層及び二次赤ホヤ層・耕土から出土している。(1~3)は押型文土器で、いずれも山形文を施す。他は条痕文を施すものである。いずれも出土量は少ない。

縄文時代前期 (24・25・28~33・50~60) 土坑内及び二次赤ホヤ層・耕土から出土している。その大半が小片であるが、主として棒状刺突具による刺突列点文と沈線文で構成される曾畠系のものと見られる。

その他石器 (11~14・22・34~49) 耕土・二次赤ホヤ層・黒褐色硬質ローム層・褐色ローム層及び前期の土坑から出土しており、おおよそ縄文時代早期~前期の間にさまるものと見られる。石鎌 (11~14・34~36)・石錐 (38)・石核 (44・49)・叩き石 (22・48) の他、剥片などが多數出土している。

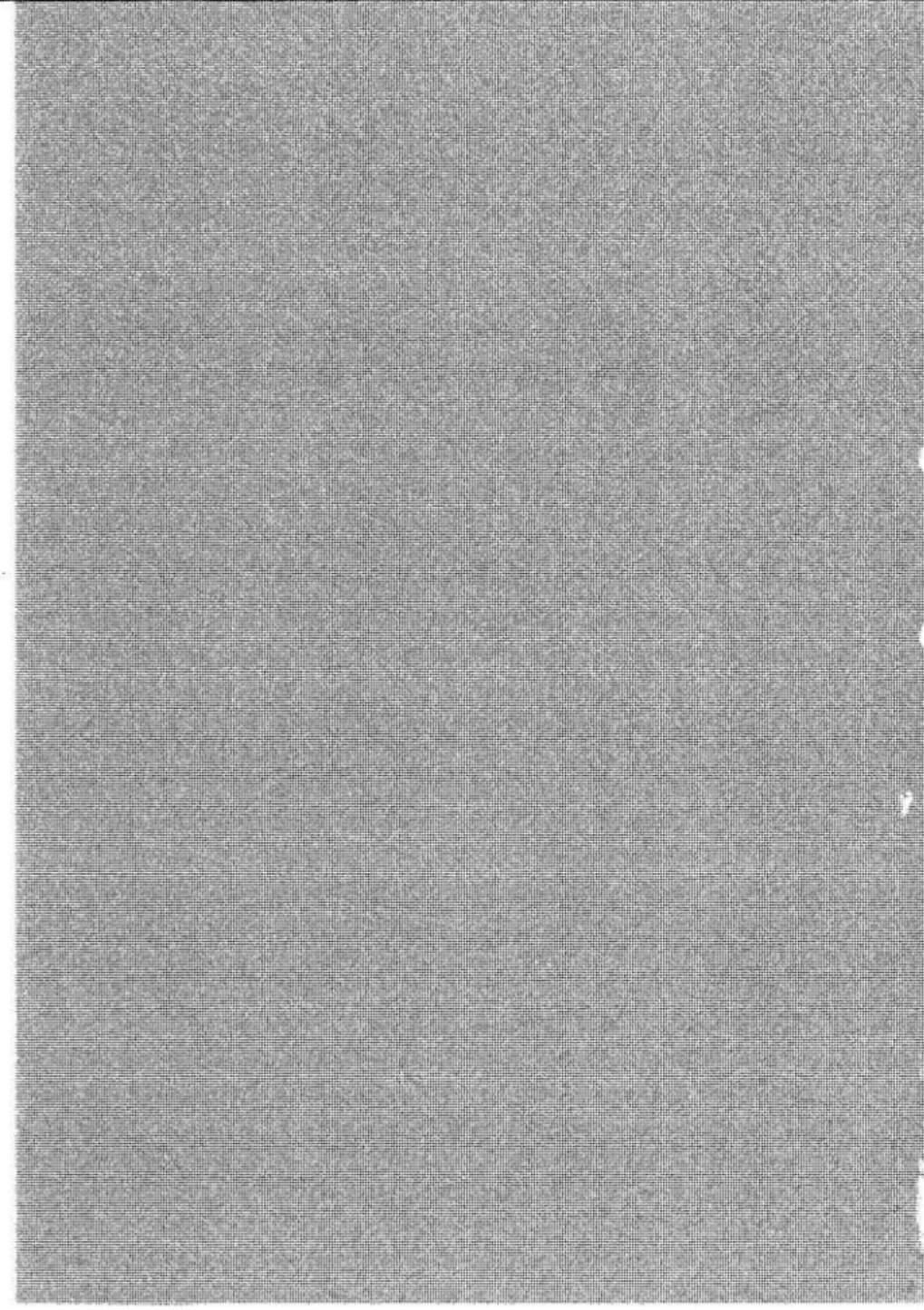


第5図 出土土器実測図・拓影

第Ⅲ章 ま と め

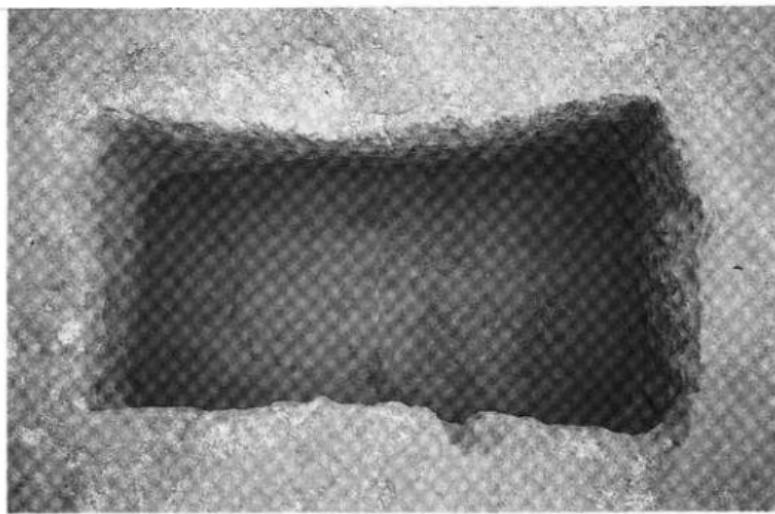
前年度まで調査の行われていた丸野第2遺跡が縄文時代早期・後期と弥生時代後期の遺跡で、縄文時代後期を中心としているのに対し、長蔵遺跡は旧石器時代と縄文時代早期・前期の遺跡で、縄文時代前期を中心としている。前期の遺跡は県下でも調査例が少なく、また田野町の縄文時代を概観する中でも注目すべき成果といえよう。今回の調査では旧石器時代から縄文時代前期にかけての遺物と、主に縄文時代前期の遺構が検出された。出土した石器の石材は黒耀石・安山岩・チャートなどで、黒耀石だけでも色調・透明度などから、少なくとも3種に分類される。その産地を同定していく必要がある。遺構は土坑のみ検出され、住居跡などは検出されなかった。土坑の形状は様々であったが、長方形の土坑が点在しており、その中には御池ボラを敷つめたものもあった。人骨等は出土していないが、その形状などから土坑墓である可能性が考えられる。土坑内の埋土については、宮崎県総合農業試験場の有村玄洋先生にリン酸分析等をお願いしており、今後の調査例と併せて検討していきたい。

写 真 図 版





A地区旧石器確認トレンチ



S K 15完掘状況



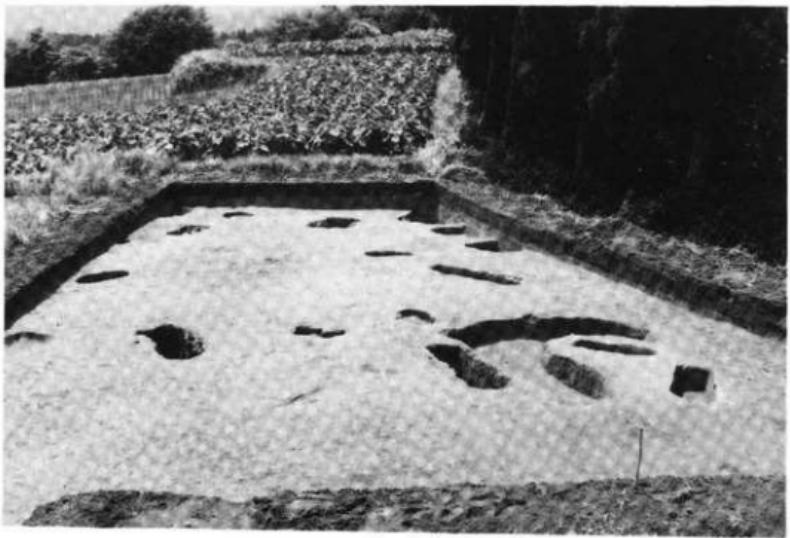
土坑内埋土サンプリング状況



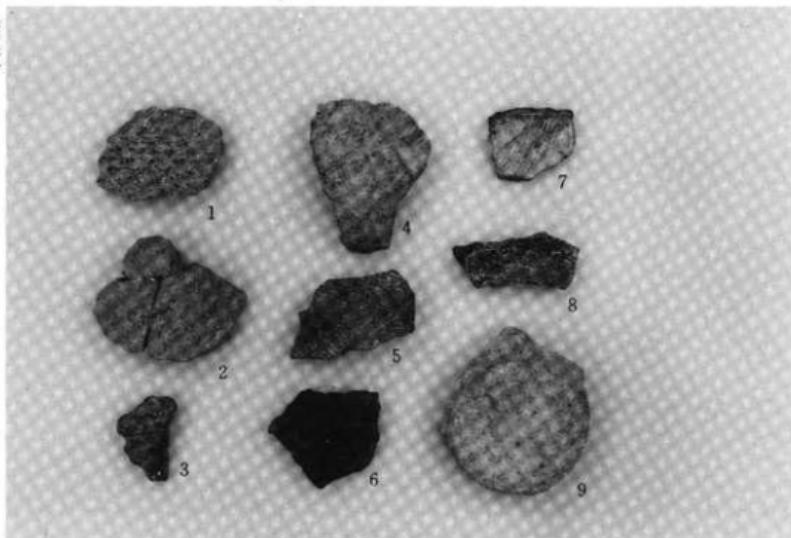
B 地区遺構検出状況



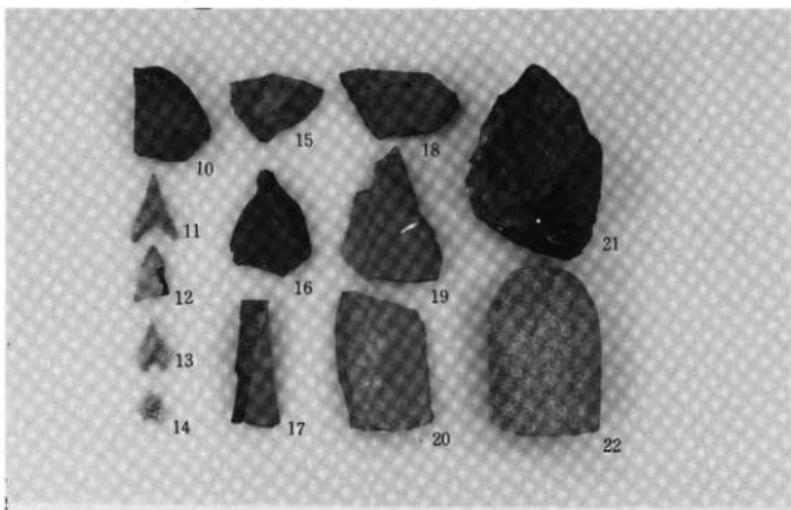
B 地区南侧遗物出土状况



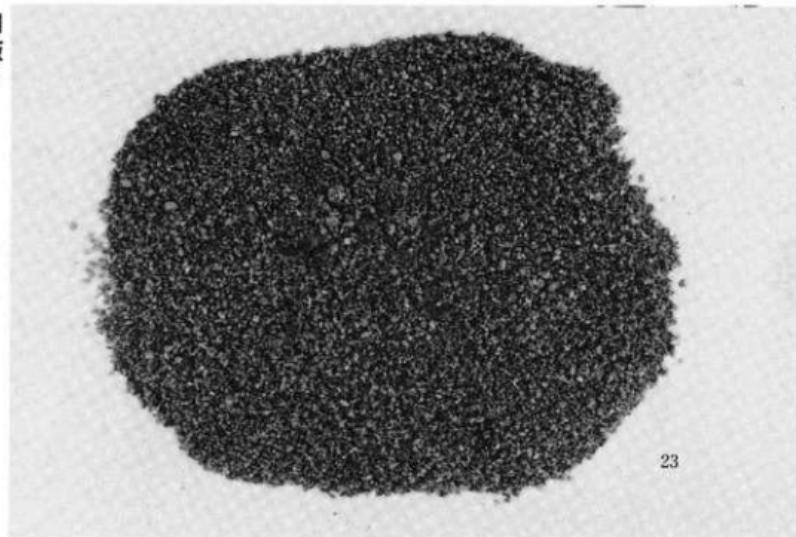
C 地 区 全 景



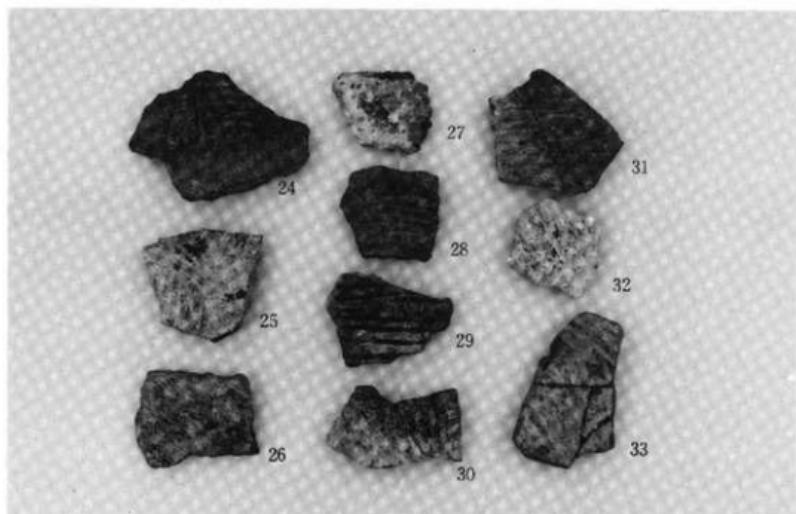
A 地区出土遺物



A 地区出土遺物

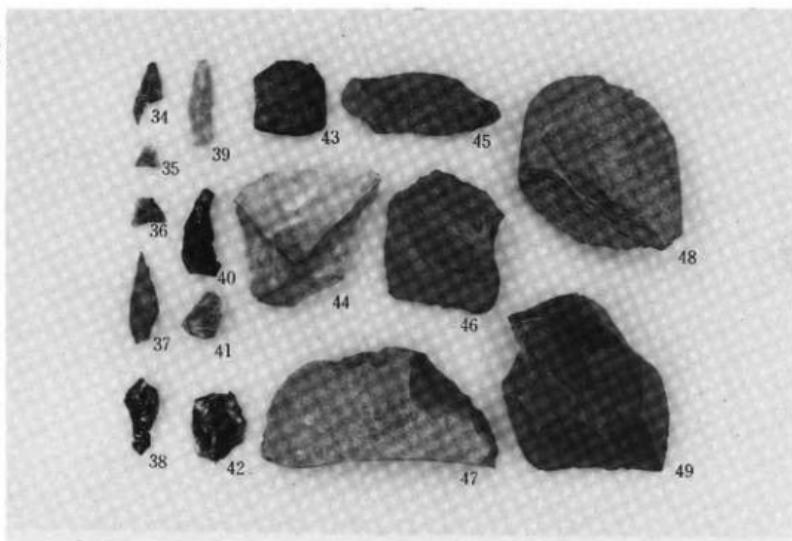


S K 70 検出（御池ボラ）

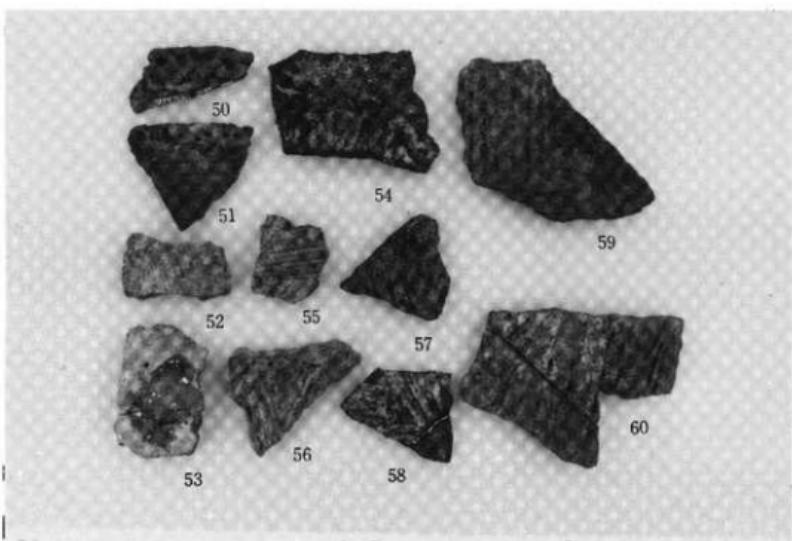


B 地区出土遺物

圖版 6



B 地区出土遗物



C 地区出土遗物

田野町文化財調査報告書 第6集

長 蔵 遺 跡

発行年月 1989年3月

編集・発行 田野町教育委員会

印 刷 (有)ダイコー印刷